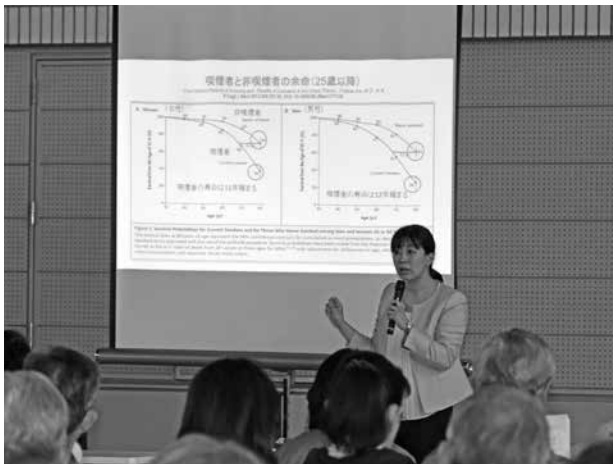


まちの話題

Machi no Wadai

市内で行われたイベントや行事、まちの話題を写真と一緒に紹介します。
また、みよし市ホームページでは「Topics(まちの話題)」と「市政番組『みよしTODAY』動画配信」でイベントや行事の様子を紹介しています。🌐<http://www.city.aichi-miyoshi.lg.jp>



いつまでも元気に過ごそう

健康づくりフェスタ

市民の皆さんが、5月から始まる健康度評価事業「いきいき元気度測定」に関心を持ち、自身の健康に対する意識を高めてもらおうと3月23日、健康づくりフェスタが三好公園総合体育館アリーナで行われました。この健康度評価事業「いきいき元気度測定」とは、健康づくりのための運動を実践する前に、健診結果や生活習慣の問診および体力測定を実施し、専門スタッフが一人一人の健康状態に合わせたアドバイスをするというもの。あいち健康の森健康科学総合センター主任専門員で医師の加藤綾子^{かとうあやこ}さんによる「いつまでも元気でいるために「いきいき元気度測定」を受けませんか」と題した講演会が行われた後、ポールストレッチやコグニサイズ、健康機器、新規事業PRなどさまざまな健康づくりイベントのブースが設けられ、参加者たちは気になるコーナーを体験しながら自分に合う健康づくりを探していました。ポールストレッチに参加した女性の一人は「たくさんの人と一緒に体験できて、とても楽しかったです」と笑顔で話していました。





鉛筆でアートに挑戦

生涯学習講座「鉛筆1本でアートしよう」



何か新しいことを始めたい、いろいろなことを学びたいと思っている市民の皆さんに学習の機会を提供しようと、さまざまな分野にわたり開催されている生涯学習講座。その講座の一つが3月14日、「鉛筆1本でアートしよう」と題して、サンライブで行われました。この講座は、画家の橋口佳子^{はしぐちけいこ}さんを講師に招き、鉛筆や赤い水彩色鉛筆、消しゴムなどを使って作品を作るというもの。5日間行われる講座の最終日となるこの日には15人が参加し、シールなどに使える自分マークのデザインに挑戦しました。橋口さんから、デザインにはイニシャルや趣味、好きなものなどを取り入れると良いことが説明されると、受講生たちは悩みながらも集中した様子で自分マークを描きました。自分マークが完成すると、受講者同士でそれぞれのマークを見せ合い、特徴やアイデアについて会話を弾ませていました。



笑顔があふれる地域にしよう

スマイルプロジェクト ～70周年にふさわしい地域貢献を～(三好中学校)



開校70年目の三好中学校にふさわしい活動として、地域とのつながりを深めていくとともに、人のためになる活動をすることで笑顔があふれる学校になることを目的に生徒会が企画した「SMILEプロジェクト～70周年にふさわしい地域貢献を～」が開催されました。この催しは、3月15日・16日の2日間、登校する際に通学路のごみ拾い活動と地域の人へのあいさつを活発に行うというもの。生徒たちは、ビニール袋を片手に自分の通学路に落ちているごみを拾いながら登校し、正門と北門の回収所にごみを集めました。企画・運営を担当した生徒会会計の西垣内ひかる^{にしがいと}さんは「このような活動をすることで、一人でも多くの方が笑顔になって欲しいと思います」と生き生きとした表情で話していました。なお、2日間の活動で燃えるごみ4袋、燃えないごみ2袋の合計6袋のごみを回収しました。



市民サービス向上を目指して 尾三地区自治体間連携に関する協定締結式

みよし市、日進市、東郷町、豊明市、長久手市の5市町による尾三地区自治体間連携に関する協定締結式が3月16日、日進市役所で行われ、5市町間での職員派遣交流事業の共同実施についての協定書にそれぞれの首長がサインしました。職員派遣交流事業

は、5市町間の連携強化や相互理解、派遣職員の資質向上を目的に、平成32年度までの1年ずつ、30歳前後の若手職員の派遣・受け入れを行うもの。小野田賢治市長は「他の市町での経験を生かし、市民サービス向上につなげていきたい」と期待を込めました。なお、平成29年度は、みよし市職員が長久手市、長久手市職員が東郷町、東郷町職員が豊明市、豊明市職員が日進市、日進市職員がみよし市にそれぞれ派遣されます。



楽しい読み聞かせをするために 平成28年度読書啓発事業 読み聞かせボランティアレベルアップ講座

生涯学習における読書啓発事業の一環として、子どもたちにお話を読んだり、お話を聞いたりすることの楽しさを伝えると同時に、読書への道を示す活動をするボランティア一人一人のスキルを上げ、これからも活動を継続してもらうために3月15日、読み聞かせボランティアレベルアップ講座がサンライ



ブで開催されました。この講座は全2回で開催され、2回目となるこの日は30人が参加。講師の元あま市美和図書館司書の山口陽子さんが「わらべうたとおはなし会」について説明し、小さい子のおはなし会のプログラムをアドバイスを交えながら実演すると、参加者たちは子どもと参加する保護者になった気持ちで楽しみつつも、熱心にメモを取っていました。受講した女性の一人は「わらべうたを5回繰り返してやってみると、子どもたちがやり方を覚えて、みんなで一緒に楽しめることが分かったので、これから取り入れていきたいです」と笑顔で話していました。



年少園児、年中園児が年長園児の卒園をお祝いするとともに、今までの感謝の気持ちを伝えようと3月17日、お別れ会が明知保育園で行われ、全園児49人が参加しました。初めて行われた年長園児へのインタビューでは、小学校生活で楽しみなことや頑張りたいことなどが質問され、園児たちは「漢字を勉強するのが楽しみです」「テストを頑張りたいです」などと元気に答えていました。年少園児と年中園児が年長園児とペアを組んでゲームを楽しんだ後は、年中園児と年少園児から歌と手作りのメダル、写真立てが贈られ、年長園児たちは受け取ったプレゼントをうれしそうに見せ合っていました。最後には、年少園児と年中園児で花道を作り、年長園児を笑顔で見送りました。年長園児の男子の一人は「手作りのプレゼントがうれしかったよ」と笑顔で話していました。

ありがとうの気持ちを込めて

お別れ会(明知保育園)



高齢者疑似体験やグループワークなどを通してジュニアサポーターを養成し、高齢者の支援を推進しようと3月27日、高齢者が集まる場所応援ジュニアサポーター養成講座が福祉センターで行われ、市内の小中学生合わせて10人が参加しました。肘と膝を曲げ伸ばしにくくするための肘あてと膝あてや視野を狭くするためのゴーグルなどを身に付ける高齢者疑似体験では、参加者たちは普段より重く動かしにくい体を体感し、高齢者の気持ちを学びました。続いて、実際に高齢者の支援を体験するためデイサービスセンター陣取の里を訪問。高齢者の皆さんに受講生たちが大きな字で作成したメニュー表の中から飲み物を選んでもらうと、受講生たちは優しく声を掛けながら飲み物を運ぶ手伝いをしました。受講した女子生徒の一人は「疑似体験で高齢者の大変さが分かったので、これからは自分ができることを考えて手伝えてあげたいです」と話していました。

高齢者を支えよう

高齢者が集まる場所応援 ジュニアサポーター養成講座

